

農薬は正しく使いましょう

—— 10 のチェックポイント ——

- 1 農薬はラベルや説明書をよく読み、正しく使いましょう。
(記載以外に使用しない)
- 2 体調がすぐれないときや、妊娠中の方は散布作業を避けましょう。
- 3 防除器具は故障や不備がないよう事前に点検・整備しましょう。
- 4 農薬を使うときは、マスク・手袋など防護具を着用しましょう。
- 5 散布は、風の少ない朝夕の涼しいときに行いましょう。
- 6 風向きや作物の高さなどを考えて、農薬が体にかからないよう散布しましょう。
- 7 環境保全のため、農薬がほ場の外に飛散・流出しないよう注意を払いましょう。
- 8 農薬の空容器は、ほ場などに放置せず、適正に処分しましょう。
- 9 農薬は食品と区別し、カギをかけて保管しましょう。
- 10 作業後は、うがい・入浴をして、衣服を着替えましょう。

散布作業中や散布後に異常を感じた場合は、直ちに医師の手当を受けてください。
処置法などで不明なことは、医師から下記に電話してお尋ねください。

中毒110番 公益財団法人日本中毒情報センター

	一般専用電話 (通話料のみ)	医療機関専用有料電話 (一件につき2,000円)
大阪 中毒110番 365日、24時間対応	072-727-2499	072-726-9923
つくば 中毒110番 365日、24時間対応	029-852-9999	029-851-9999

身体に異常を感じた時は、必ず医師に連絡を取り、その指示に従ってください。
医師へは次の点を必ず伝えてください。

《 医 師 へ の 連 絡 》

- ◎ 農 薬 の 名 称 (容器からラベルがあれば持参する)
- ◎ 飲み込んだ量、濃度 (希釈倍数、場所及び時刻、保護具の着用状況)
- ◎ 異 常 の 発 生 状 況 (散布中か、誤飲かなど)
- ◎ 摂 取 ・ 接 触 の 経 路 (飲み込んだ、皮膚や目に浴びた、吸い込んだ等)
- ◎ 今起こっている症状 (症状の箇所・程度、意思の有無、けいれん等)